

ブドウ「あづましずく」の異常成熟果の発生低減対策

福島県総合センター果樹研究所栽培科

1 部門名

果樹—ブドウ—栽培

2 担当者

桑名篤・川口悦史・増子俊明・額田光彦・小野勇治・安達義輝

3 要旨

県オリジナルブドウ品種「あづましずく」の異常成熟果は、マンガン欠乏により発生すると考えられているが、その対策として0.5%硫酸マンガンンジベレリン溶液へ加用し処理するか幼果期に果房散布することで、発生を低減することができる。

- (1) 異常成熟果は成熟期を迎えても①着色が悪い、②糖度が上がらない、③酸が低下しない、④果粒肥大が停滞し軟化するなどの症状をもつ果粒であり、房中に数粒混入するのが特徴である(図1)。
- (2) ジベレリン溶液に0.5%の硫酸マンガンを加用して処理することで、異常成熟果の発生房率は大幅に低減し、1房あたりの発生粒数も少なくなる(図2)。
- (3) 幼果期に0.5%の硫酸マンガン単用で果房に散布することで、ジベレリン溶液に加用した場合と同等の効果が得られる(図2)。
- (4) 硫酸マンガン処理による果実品質の低下や障害果発生は確認されない。



図1 「あづましずく」の異常成熟果
(左:異常成熟果、右:正常果)

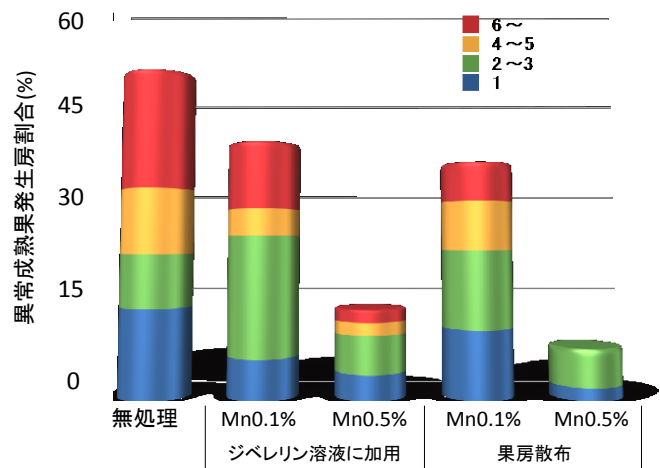


図2 硫酸マンガン処理と異常成熟果の発生

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成27~28年度
- (2) 研究課題名 ブドウ「あづましずく」の安定生産技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料